

名前から見るジェンダー

福井県立武生高等学校 氏名 佐々木ほほか 森百花 安原七葉 渡邊明莉

【要約】

近年多様化している名前に焦点を当てることにより親が子どもに求めるものの男女差を知り、ジェンダー差別や偏見の解決につなげることを目標とした研究である。武生高校在校生と卒業生の名前のそれぞれの漢字の使用率を調査し、そこからどのような由来が多いのかということ进行分析した。その分析結果を踏まえてアンケートを行い、実際にどのような名前の由来が多いのかということ明らかにした。結果として容姿や個人の能力に期待をする願いが減少し、個人の人格や生涯を通した幸福への願いが増加傾向にあることが分かった。また、ジェンダーという観点では男女によってつけられた願いが大きく異なっていたが、一部については男女差が小さくなっていると判断できる項目もあった。最終的な結論として名前の由来の男女差は全くなかったとは言えないが、差が小さくなりつつあると言える。今後の展望として武生高校の在校生の名前に使われる漢字の全国比較を行い、名前の男女差について地域差の有無の解明を追加調査として行っていきたい。

【目的】ジェンダー差別や偏見の解決

【問い】名前における親が子供に求める事柄の男女差は
どう変化してきたのか

【背景】名前の漢字は男女で違いが多いが、由来分析は先行研究では未実施

【仮説】名前自体に変化は見られるものの、
名前に見られるジェンダー観、男女差は完全にはなくなっていない

【検証方法】

- ① 武生高校の卒業生(男子750人 女子635人)1977~1979年出生※1
武生高校生(男子456人 女子447人) 2006~2008年出生
これらの名前に使われている漢字、平仮名、片仮名の使用率を調べる※2
※1 現在の高校生の親の平均年齢に当たる年代※2 武生高校同窓会名簿と現武生高校生徒の名簿を使用
 - ② 由来の考察: 10人以上の名前に使われている漢字を挙げる。
⇒『赤ちゃん命名ガイド※3』で漢字に込められている願いを調べる。
※3「新漢語林」を基にしている。内容が新漢語林と同じを使用。
登録された44万件以上の名前のデータを基に漢字の意味から名前に込められる願いが掲載されている。
- ①②の研究はアンケートの項目を作成するために行った。
 - ③ アンケート(武生高校1,2年生 保護者 教職員 対象)
 - ④ アンケート結果の分析
 - ⑤ カイ二乗検定による分析結果の信頼性の検査

【結果】

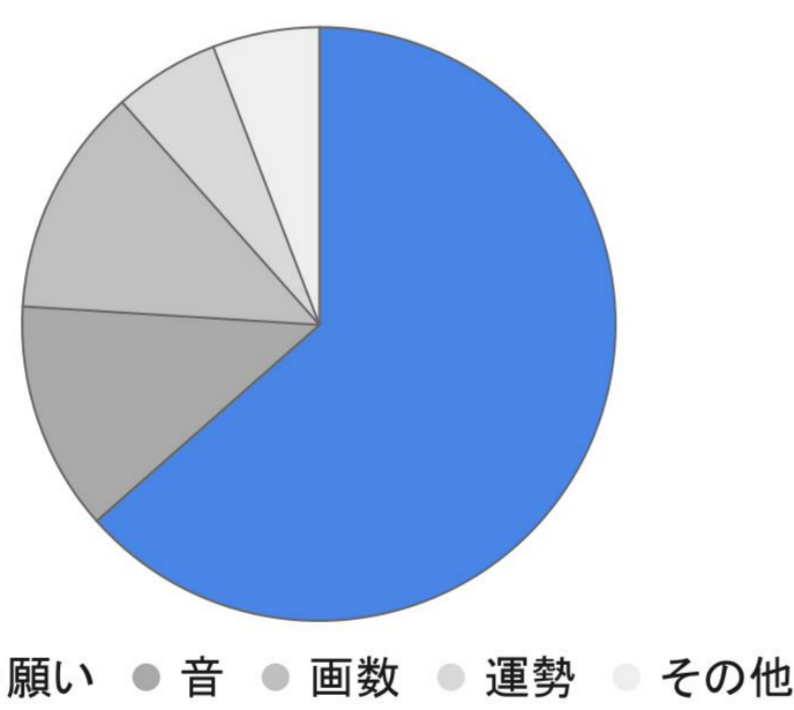
〈①②の研究より〉

名前に使われている漢字から分析した多くつけられている願い
2006~2008年度の男子: 明るさ・自由・豊か
2006~2008年度の女子: 優しさ・明るさ・強さ・健康・自由・豊か
『明るさ』『自由』『豊か』の3点が男女共に共通

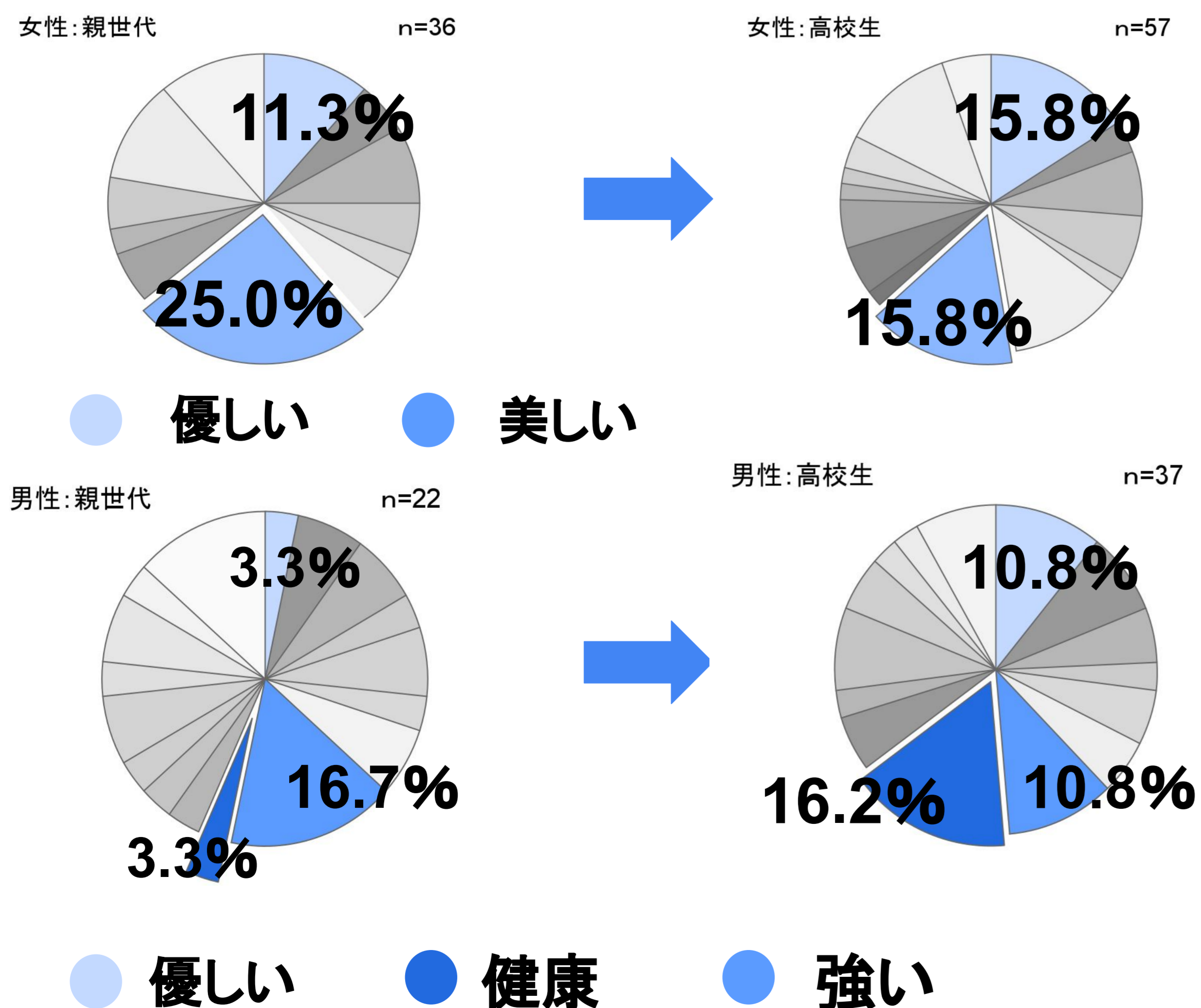
〈③の研究より〉

親が子どもの名前をつける際に
「意味・願い」が最も重要視されている。

「名前がつけられた際に最も重視されたことはなんですか」
n=104



「自分の名前に込められている願いはなんですか」



最も多く込められている願いの変化
女性:『美しい』→『優しい』 男性:『強い』→『健康』『優しい』

【考察】

カイ二乗検定を行うことでデータの有用性についての考察を行った

〈対立仮説〉女子と母では名前に込められた優しいという意味において差がある
〈帰無仮説〉女子と母とでは名前に込められた優しいという意味において差はない

I 観測度数	優しい	その他	計	II 期待度数	優しい	その他	計	III 観測-期待	優しい	その他	計
	女性:高校生	9(16%)	48(84%)		57	女性:高校生	7.98		49.02	57	女性:高校生
女性:親世代	4(11%)	32(75%)	36	女性:親世代	5.04	30.96	36	女性:親世代	-1.04	1.04	36
全体	13	80	93	全体	13(14%)	80(86%)	93	全体	13	80	93

IV カイ二乗値	優しい	その他	V 二乗+期待	優しい	その他
	女性:高校生	1.04		1.04	女性:高校生
女性:親世代	1.08	1.08	女性:親世代	0.21	0.03

・X2乗値 0.39

危険率	10%	5%	1%
自由度1	0.3485	3.841	6.635

以上の計算により、私達の研究結果のX2乗値は0.39になるので危険率が10%以内である。よってこの結果は必然である。
⇒しかし、危険率5%を超えるため精度は低い

女性:『美しい』:9%減 『優しい』:4.7%増
男性:『強い』:5.9%減 『健康』:12.9%増 『優しい』:7.5%増(アンケートより)

⇒容姿や潜在的な能力に期待した願いは男女ともに減少し、
内面に関する願いや生涯の生活での幸福に関する願いが増加した。
⇒①②の研究とアンケート結果を比較すると男女共に共通している
「明るさ」「自由」「豊か」の3点に直接的でなくとも関連している願いが増加

『優しい』女性:11.1%→15.8%
男性:3.3%→10.8% (アンケートより)
⇒「優しさ」が男女で共通する重要な人格となったのではないかと

男性らしい: 包容力、たくましい、強い、優しい、行動力、リーダーシップ
女性らしい: 上品、気遣い、繊細さ、家庭的、かわいさ、愛嬌、色気、美しさ
共通: 優しさ、心の広さ、忍耐強さ、誠実
ジェンダー意識に関する検討-男性性・女性性を中心にして-(2009)より

「強さ」が男性で減少⇒「男性らしさ」を願うものが少なくなった
「美しさ」が女性で減少⇒「女性らしさ」を願うものが少なくなった
「優しさ」が男女ともに増加
⇒「男性らしさ」「女性らしさ」に関係ない願いが増加した

【結論】

名前の由来についての調査より、親が子供に求めるものの男女差が
完全になくなったとは言えないが、その差は小さくなりつつある

【今後の課題】

カイ二乗検定で研究の妥当性について検証した結果、今回の研究で得られた結果に妥当性はあるが、その精度は高くはない。その原因としてデータ数の少なさが挙げられると考えた。そのため今後はさらにデータを集めて行こうと考えている。
また、データを集める以外での研究の発展は難しいため、2006年から2008年生まれの生徒の名前に使われた漢字を明治安田生命保険相互会社により発表されている『名前に使われる漢字ランキング』と比較し、地域ごとの違いを調べる研究を進める。

【参考文献】

- 赤ちゃん命名ガイド
<https://b-name.jp/>(参照 2025-02-07)
- 安田生命の名前ランキング2024
<https://www.meijiyasuda.co.jp/enjoy/ranking/>(参照 2025-02-07)
- 川岸克己(2013-01-14)「人名における漢字使用の変化とその誘因」(参照 2025-02-07)
- 加知ひろ子(2002-08-09)「男・女らしさに関わる意識」(参照 2025-02-07)
- 高井範子 岡野孝治(2009)
「ジェンダー意識に関する検討-男性性・女性性を中心にして-」(参照 2025-02-07)
- ウンサーシュッツ・ジャンカーラ(2023-03-31)
「日本の名前における変化とジェンダー表象-子どもの名前は本当に中性化しているのか-」(参照2025-02-07)